あとがき

今回は〝マックス・エルンスト，ケルンのダダ〟展と題し，“Fiat modes pereat ars” 1919石版8点を中心に，ハノヴァーダダのシュビッタースの石版8点を収録した雑誌 MERZ KATHEDRALE 1920 そしてニューヨークダダのマン・レイの写真〝M・エルンストの肖像〟(ガスマンによるプリント)も混え展示することとなった。11月の山田正亮1950〜80展に次ぎ，新しい画廊での第2回目の展覧会である。展示場が広くなったため上記作品だけでは淋しいので，別のコーナーにはデュシャン，タンギー，ミロ等シュルレアリストの作品も併展することとした。

カタログにはM・エルンストに強い関心をお持ちの詩人吉岡実さんから「郭公　あるいは青い森」と題する詩をこの展覧会のためにお寄せいただいた。当画廊の展覧会カタログは今回で24号を数えるが，詩が載るのは始めてである。またテキストは本江邦夫さんにお願いしご寄稿いただいた。この詩とテキストにより，この展覧会は一層のふくらみと厚味を増すこととなった。感謝申し上げる次第である。

当画廊でエルンスト展と名のつく展覧会はこれで5回目である。つまり画廊オープン以来毎年開催している計算になるが，それはとりもなおさず，ぼくがエルンストに強い関心を持っていることを示している。しかし今回はとりわけ格別の感慨にしたっている。というのも，この“Fiat Modes”はM・エルンストにとって記念碑的な意味をもつ———サナギから蝶になった——作品で，〝ケルンのダダ〟のシンボルというに止まらず，現代美術史的にみて貴重な歴史的作品だからである。恐らくわが国では初めての展示ではなかろうか？。そんなわけでポスターも作成した次第である。どうぞごゆっくりご覧ください。

1982年12月8日

佐谷画廊
佐谷和彦